

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震活動報告

活動隊員：寺田英子・紫 宇代

1. 活動日時 2024年1月31日（水） 24時間体制（交代制）
2. 活動場所 珠洲市立 大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）
避難所使用者数 54人：27世帯
3. 被害状況（1月31日9:00現在）人的被害：石川県死者 238人：行方不明 19人
4. 天候：曇天 最高気温 6℃ 最低気温 1℃

5. 活動の実際

- 7:00 ホットタオル配布・健康観察・含嗽液設置
- 8:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting
- 8:45 環境整備（トイレ・玄関・生活エリア）行政・ボランティアと協働
- 9:30 体育館の換気・マスク交換・体操・感染症予防対策の啓発
- 10:00 PWJ巡回診療（5名診察）診察介助・情報提供
珠洲市立総合病院への受診調整
- 11:00 新聞社の取材対応
- 12:00 PWJ診察終了・処置の指示等の情報共有・
昼食・配膳・下膳
- 13:00 環境調整・物品管理
- 14:00 活動要領等の改訂
- 16:00 換気・ラジオ体操
- 17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting
- 18:00 夕食・配膳・下膳
- 19:00 大谷小中学校本部関係者 meeting
- 19:45 看護師ラウンド
- 21:00 消灯
- 22:00 報告書記載
- 23:00 看護師巡回
- 0:00 以降、交代にて仮眠

6. 考察

【避難全体について】

暖かい日だったためか、シャワー浴をされる方も多く、「洗濯したり布団を干したりしたい」との声が聞かれた。生活環境全般においては、運営側の努力と避難者の協働もあって少しずつ改善されている。

【健康面について】

本日は NGO の医療チームによる巡回診療の日であった。発災後、かかりつけ医への定期受診ができていない方も多し。既往症の悪化や新たな疾病の早期発見のために、看護師のきめ細やかな観察や個別性のある対応が重要である。夜間、咳が続き不眠気味であった方や下肢の浮腫が著明な方が受診された。特に下肢浮腫の方については、事前に珠洲市保健医療福祉調整本部に DVT 検査を要望していたため、医療チームはエコーなどの装備をして来訪してくれた。

珠洲市保健医療福祉調整本部とのミーティングでは各避難所でコロナやインフルエンザの感染症が日々発生しているとの情報が発信されている。当避難所では 1 月 22 日にコロナ患者の隔離解除以降、新たな感染症の発生はない。感染症予防のために、排水のできる洗面所 2 か所に含嗽水を設置、避難者全体に感染予防策を再度説明し、全員で感染対策に取り組むよう啓発した。断水という環境のなかでいかに感染症を予防するか、看護師の創意工夫が必要である。

避難所で生活する 5 人の児童に関しては、学校も再開し、学習時間が取れるようになった。そもそも児童数が少なく小中学校一貫の為、高学年から低学年まで一緒に元気に遊んではいらぬものの、時折、千葉県行政の支援者や看護師のもとに来て、膝に乗って甘える姿も見られている。

その中に、地震で倒壊した自宅から這い出した経験をもつ 7 歳の児童がいる。看護師と一緒に遊んでいたが、怖い女性の姿（井戸から這い出てくる女性）や家を襲う大きな津波の絵を描いた。心のストレスを絵で表現している為、周囲の大人は決して否定せず受けとめ、さりげなくスキンシップを図りながら安心した日常を確保していく必要があると考える。

明日で震災後 1 か月が経過する。災害後の子供は大人以上にダメージを受けていることを理解し、遊びを通じてストレスの軽減を図り、PTSD の徴候に留意しながら早期に生活のリズムを整えていけるよう周囲の大人で援護していきたいと考える。

以上



写真 1 小児とかかわる看護師

※学会ホームページの掲載に関して保護者のご承諾を得ております